

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鹿西町立能登部小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	14
児童数	33	32	35	36	35	29	1	201	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の創造

- 自ら学習意欲を高め進んで取り組む子をめざして -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年～6学年（算数科 理科・生活科）

児童の実態を考慮し、児童の基礎学力の向上を図るため、理解度に差が出やすい教科を中心に研究を進めることにした。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力の創造 - 自ら学習意欲を高め進んで取り組む子をめざして -</p>
	<p>仮説</p> <p>(1) 児童が学習意欲を高めるような指導方法・指導体制を工夫・改善すれば、確かな学力の向上を図ることができるであろう。（教科部会）</p> <p>(2) 児童の実態を把握し、朝の読書タイムやドリルタイムにおいて集中力を高めたり、発展学習として「チャレンジタイム」や「最先端科学に学ぶ」取り組みをするなど、学校教育全体を通して学びの機会を充実させれば、確かな学力が向上するであろう。（基礎・発展部会）</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎学力の向上を図るための指導法の工夫と教育課程の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領のねらいが十分に達成できるような指導のあり方を研究する。 ・公開研究会（年2回）を実施し、指導法の工夫や改善を図るとともに学力向上の普及活動につとめる。 ・指導と評価の一体化を図り、指導の手立て・工夫を明確にする。 ・少人数授業（算数科）、TT授業（理科）を取り入れる。 ・確かな学力を向上させるための指導法や評価などを学ぶ研修会を持つ。 <p>学習意欲を高める指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を持って追究したくなるような場の設定と手立てを工夫する。 ・個に応じた指導方法、授業形態、教材教具の開発と工夫をする。

平成
15
年度

- ・発展的な学習を積極的に取り入れたり，総合的な学習の時間と関連させたりしながら，感動や知的好奇心が生まれる体験活動を重視する。
- ・最先端科学の話を聞いたり，大学講座に積極的に参加するなどして専門家に感化を受けるような場を設定する。
- ・チャレンジタイムで子どもの意欲を引き出し，可能性に挑戦していく。

基礎学力を定着させるための工夫

- ・朝のドリルタイム，読書タイムで計算・漢字・読書を継続的に行う。
- ・週末テストなどを利用し，学ぶ習慣を身に付けさせる。

家庭や地域との連携を図る工夫

- ・学年だよりやフロンティア通信を発刊し，取り組みの内容や様子を知らせる。
- ・授業参観や学校説明会を活用しての紹介を行う。
- ・ホームページで研究や活動の様子を公開する。
- ・ようこそ先輩などで地域の人材の活用を図る。

テーマ 確かな学力の創造
- 自ら学習意欲を高め進んで取り組む子をめざして -

仮説

- (1) 児童が学習意欲を高めるような指導方法・指導体制を工夫・改善すれば，確かな学力の向上を図ることができるであろう。（教科部会）
- (2) 児童の実態を把握し，朝の読書タイムやドリルタイムにおいて集中力を高めたり，発展学習として「チャレンジタイム」や「最先端科学に学ぶ」取り組みをするなど，学校教育全体を通して学びの機会を充実させれば，確かな学力が向上するであろう。（基礎・発展部会）

研究の内容・方法

確かな学力の向上を図るための指導法の工夫と教育課程の改善

- ・学習指導要領のねらいが十分に達成できるような指導のあり方を研究する。
- ・指導と評価の一体化を図り，指導の手立て・工夫を明確にする。
- ・算数科における少人数授業の実践を深め，さらに効果的な指導法を探る。
- ・理科におけるIT授業のあり方と指導法の工夫を図る。
- ・チャレンジタイムや最先端科学に学ぶ取り組みを継続的に行っていくため，教科との関連付けや教育課程上の改善を行う。
- ・確かな学力を向上させるための指導法や評価などを学ぶ研修会を持つ。
- ・公開研究会と研究発表会を実施し，指導法の工夫や改善を図るとともに学力向上の普及活動につとめる。

学習意欲を高める指導の工夫

- ・問題意識を持って追究したくなるような場の設定と手立てを工夫する。
- ・個に応じた指導方法，授業形態の工夫をする。
- ・子どもたちの興味・関心が高まる教材・教具の開発と思考を深める効果的な実験方法を探る。
- ・発展的な学習を積極的に取り入れたり，総合的な学習の時間と関連させたりしながら，感動や知的好奇心が生まれる体験活動を重視する。
- ・最先端科学の話を聞いたり，大学講座に積極的に参加するなどして専門家に感化を受けるような場を設定する。
- ・チャレンジタイムで子どもの意欲を引き出し，可能性に挑戦していく。

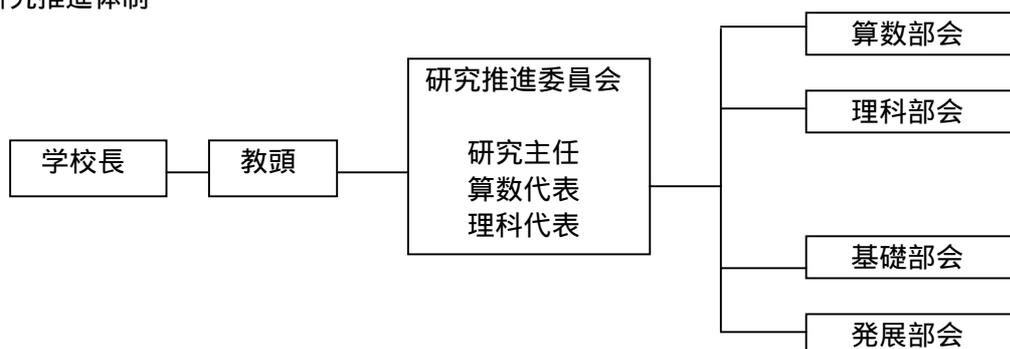
基礎学力を定着させるための工夫

- ・朝のドリルタイム，読書タイムで計算・漢字・読書を継続的に行う。
- ・週末テストなどを利用し，学ぶ習慣を身に付けさせる。

家庭や地域との連携を図る工夫

- ・学年だよりやフロンティア通信を発刊し，取り組みの内容や様子を知らせる。
- ・授業参観や学校説明会を活用しての紹介を行う。
- ・ホームページで研究や活動の様子を公開する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

教科部会

少人数授業の指導法の工夫や朝のドリルタイムでの計算への取り組みから、算数に対してやる気や粘り強さを持つ子が増えてきた。
問題意識を持たせる場の設定や手立てを工夫することによって、子どもたちの学習意欲が高まりつつある。
各学年とも少人数授業が定着し、個に応じた指導ができるようになってきた。
指導と評価の一体化を念頭に置き、観点別学習状況の評価を適切に実施していくことが重要であることについて共通理解を図り、評価規準の作成と手立ての工夫をすることができた。

基礎部会

朝のドリルタイムや読書タイムを継続的に行うことによって、落ち着いて学習に立ち向かう子が増えてきた。
ドリルタイムは、全校一斉に同じマニュアルで進め、児童だけで取り組む時間として定着してきた。

発展部会

宇宙やバイオテクノロジーなど最先端科学について、専門家から話を聞くことができ、科学についての興味や関心が児童の中に芽生えてきている。
最先端科学の取り組みで、広い視野にたった物の見方や考え方など子どもたちの思考の幅が広がった。
チャレンジタイムでは、子どもたちの意欲を引き出すことができ、それぞれの分野において成果も上がってきている。

その他

学力向上を図るための取り組みについて、フロンティア通信で保護者に通知することができ、理解や協力を得られるように努めることができた。
公開研究会（年2回）を実施し、授業の改善に努めることができた。

2. 今後の課題

- 1 算数・理科を中心に、指導と評価の一体化を図るために、評価計画や評価方法、目指す子どもの姿に迫る指導の手立てなどに重点を置いて進める。
- 2 問題意識を持ち続けるための場の設定と指導法の工夫に向けて、今後も研究を進める。
- 3 理科におけるIT授業のあり方と指導法の工夫を図る。
- 4 子どもたちの興味関心が高まる教材教具の開発と思考を深める効果的な実験方法を探る。
- 5 算数科における少人数授業の実践を深め、さらに効果的な指導法や授業形態を探る。
- 6 チャレンジタイムや最先端科学に学ぶ取り組みの教科との関連付けや教育課程上の改善を図る。
- 7 個人評価としての実力テストや外部評価としての児童と保護者のアンケートを実施する。

